

本資料は、サノフィ(フランス・パリ)が2023年1月18日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・要約したものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。

2023年1月23日

サノフィ、グローバルで次世代支援の奨学金を設立 ～ヘルスケア産業における多様な人材のキャリア形成を支援～

パリ、2023年1月18日 — サノフィは、第53回世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)において、サノフィ初のグローバル高等教育支援プログラムである、Sanofi NextGen Scholarship (サノフィ次世代奨学金)を設立したことを発表しました。少数民族、女性、障がい者、LGBTQ+など、統計上学生に占める割合が人口比率より低いと考えられる属性にあり、特に、医師、看護師、科学者、研究者や医療関連のキャリアを目指す学生に対して、高等教育への学費とその他の費用の支援を開始するものです。

同奨学金は、ブラジル、フランス、日本、英国、そして米国を起点に本年より開始します。各国の高等教育機関と連携し、(全学生に占める割合が人口比率より低いグループに属する)優秀な学生を毎年最大100名選出し支援の対象とします。学生は大学のウェブサイトに掲載される情報を通じて本プログラムに応募することができます。選ばれた奨学生には、学費と生活費の一部が支給されます。また、サノフィは経済的支援に加え、奨学生への育成支援を行うほか、メンターシップやインターシップ、卒業後の進路に関してサポートを提供します。本プログラムは他の国々でも展開する予定で、サノフィの A Million Conversations の取り組みの一部です。

A Million Conversations とは

「A Million Conversations」は、少数民族、女性、障がい者、LGBTQ+など全体に占める割合が人口比率より低い属性の人々と医療関係者との信頼関係の構築を目標に掲げ、5,000万ユーロ(約69億円)を投じて2030年まで継続するサノフィの新たな取り組みです。本プログラムでは、上記の属性の人々との対話を活性化する機会を設けるべく、まずはブラジル、フランス、日本、英国と米国の5カ国で活動を開始します。この活動には、医療現場で偏見や差別的な経験をしたことのある方々、(政府関係者やNGOも含む)地域医療の代表とサノフィの従業員が参画し、広い視点でヘルスケア業界の政策や考え方に変化をもたらすことを目的としています。参加者は、信頼関係を阻む原因についてさらに研究を深め、今後の改善策を検討していきます。サノフィは、Trust and Inclusion Reportの年次報告にこの活動で取り上げられた内容や実行可能な解決策、並びに2030年に向けた目標への達成状況を示していく予定です。

奨学金設立の背景

Sanofi NextGen Scholarship (サノフィ次世代奨学金)は、少数民族、女性、障がい者、LGBTQ+など全体に占める割合が人口比率より低い属性にある人々に対して、医療体制への信頼を評価した初のグローバル調査の結果に基づき設計されています。サノフィの支援で行われたこの調査では、このような属性の人々は医療への信頼感が低く、75%近くが信頼が揺らぐような経験をしたことがあると回答しました。また、調査ではこうした属性にある患者さんについて、その59%が多様な背景をもつ医療従事者と接したいと考えていることが明らかになっています。

調査について

サノフィの支援で Purpose Union 社と The BRC 社が少数民族、女性、障がい者、LGBTQ+など全体に占める割合が人口比率より低い属性にある人々を対象に行いました。調査結果によると、これら属性の人々の大半はこれまでにネガティブな経験をしたことから医療関係者への信頼を失っていることが明らかになっています。

本調査では、ブラジル、フランス、日本、英国と米国の 5 カ国で 11,500 人以上を対象とし、回答者の多くは主にマイノリティや、マジョリティーではない属性の人々でした。大半の人々がネガティブな経験をしたことが 1 回以上あり、医療への信頼を失ったと回答し、その理由として最も多かったのが「話を聞いてもらえないように感じる」(37%)、「サービスが悪い」(34%)、「説明が不十分」(33%)であり、回答者の 5 分の 1 が「歓迎されていないように感じる」(20%)、「(見た目・特性で)判断されているような気分になる」(20%)や「安心できない」(19%)と答えています。

日本を対象とした調査では、何らかの障がいがある人々は、特に医療へのアクセスが重要であるにもかかわらず、健常者の人々に比べ、医療への信頼感が低下するような経験をした割合が高いことが明らかにされました(67% vs 44%)。また、日本人以外の背景やアイデンティティを持つ人においても同様の傾向が見られました(60% vs 48%)。

調査では、世界中の回答者に対して、医療業界が信頼を取り戻すには何をすべきかを尋ねたところ、「より頼りになる存在になる」(79%)、「最良の医療を提供する」(77%)、「透明性を高める」(77%)、「公平に扱う」(77%)との回答が得られました。

サノフィ最高経営責任者(CEO) **ポール・ハドソン** は、A Million Conversations に関し、次のように述べています。

「サノフィは、革新的なグローバルヘルスケア企業として、少数民族、女性、障がい者、LGBTQ+など全体に占める割合が人口比率より低いグループの方々が医療が必要な時に直面する問題の解決に向けて、担うべき役割があると考えています。私たちは次世代の多様なヘルスケアリーダーの育成を支援します。これらの属性の方々と医療に携わる人々が対話を重ね、信頼関係を構築することで、すべての方々の関係と医療の向上に貢献できると考えています」

ハーバード大学 T.H. Chan 公衆衛生大学院の **ミシェル・A・ウィリアムス (Michelle A. Williams)** 学部長は調査について次のように述べています。

「調査結果は、医療体制の改革が急務であることを改めて示す内容です。多くの人々、特に社会的に弱い立場に置かれた属性の人々が、医療従事者への信頼を失っているとの結果は憂慮すべきものですが、私にとっては驚きではありませんでした。信頼関係を阻むこの危険なギャップを埋めるには、医療従事者の多様性を高め、様々な背景をもつ患者さんが自身の経験を理解できる医療従事者に出会えるようにしていく必要があります。また、私たちは医療従事者に対して無意識の偏見に気付き克服すること、そしてわかりやすく思慮深いコミュニケーションをとること、さらには、あらゆる背景をもつ患者さんに対して注意深く、敬意をもって傾聴するよう啓発していく重要性を認識しています。この調査で明らかにされた課題は喫緊であり、結果を真摯に受け止め変革を進めることが重要です」

サノフィについて

サノフィは、人々の暮らしをより良くするため、科学のもたらす奇跡を追求する、というゆるぎない使命を原動力に進み続ける革新的でグローバルなヘルスケア企業です。約 100 カ国の社員は、医療を変革し、不可能を可能に変えるため、日々研鑽に努めています。私たちは、社会的責任と持続可能性を企業の本質とし、画期的な医薬品や生命を守るワクチンを開発し、世界何百万もの人々に届けていきます。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。